

【調査速報】 **長浜市西浅井町 塩津港遺跡**

古代の港に付札木簡

現地表面から約2m掘り下げた標高約84mで、琵琶湖岸を埋め立てた平安時代後期の港の遺構を確認しました。この埋め立ては塩津港の施設を拡張するために行われたものと考えられます。湖岸の埋め立てに使われた土砂の厚さは、最大約1.5mを測ります（おうみ文化財通信 vol. 13 参照）。

工事は少なくとも12世紀中に5期に渡って行われており、12世紀の終わり頃には埋め立て部分が琵琶湖側に20mほど前進し、ほぼ終了しています。港は短期間に改修・増設を重ね、使われていたことがわかります。

そのなかの12世紀中頃に行われた約7m×5mの規模で埋め立てた区画に伴って木簡が出土しています。当時は琵琶湖に突き出した施設（区画）であったと考えられます。区画の周囲に杭を打ち、その間に細い枝を絡め、外周に沿って石を大量に投入していました。内部は細い枝を敷き詰め、その上に土砂と一緒に当時のゴミを投入しています。その中に木簡が含まれていました。

木簡は「付札木簡」で両面に文字が判読できます。木簡から古代の税制である封戸制が解消されていく段階での税物の具体的な動きを見ることができ、塩津港が交通・流通の拠点として果たしていた役割をうかがうことができます。（写真：滋賀県教育委員会提供）



◆出土した木簡

荷物につけられた付札木簡です。表には「皇后宮御封米」裏には「代十石 栗毛 / 母馬」と書かれています。「皇后宮に与えられた封戸から納められるお米10石の代わりに栗毛の母馬」の意味です。

* 塩津港遺跡の記者発表資料は、当協会ホームページからダウンロードできます。 <http://www.shiga-bunkazai.jp/>

「もっと知りたい！」をお届けします♪



滋賀県文化財保護協会では、キッズ・ファミリー向けの展示・体験学習イベントのほかに、文化財情報をもっと詳しく知りたい方に「連続講座」を実施しています。講師は発掘現場の最前線で活躍する当協会の精鋭調査員。汗水たらして調査した成果を分かりやすくご提供していきます。おかげさまで毎年 100 名の方が受講登録。毎回のアンケートで頂く暖かい励ましや厳しいご意見を大切な糧にしながら、更なるグレードアップを目指して毎年頑張っています。



◇受講料：講座全9回で 5,000 円（初回一括入金）

◇定員：100 名（申込先着順） ◇時間：各回 13:30 ～ 15:30

◇会場：滋賀県立図書館 大会議室

（JR『瀬田駅』下車→帝産バスで約 15 分→『文化ゾーン前』下車徒歩5分）

※応募期間は既に始まっていますので、参加をご希望される方は下記の問い合わせ先までお早めにお電話をください（定員に達しました場合はご了解下さい）。

◇お申込み方法（電話受付のみとなっています）

*お申込み時には①お名前 ②電話番号 ③ご住所 をお伝え下さい。

◇お申込み・問い合わせ先

*受付時間は土日祝日を除く 8:30 ～ 17:15

公益財団法人滋賀県文化財保護協会 連続講座 (077-548-9780)

■内容 遺跡からみた歴史の本当の面白さをお楽しみください。

第1回：平成 25 年 5 月 11 日（土）「縄文人の空間思想・環状墓地の秘密」（東近江市相谷熊原遺跡・講師：松室孝樹）

第2回：平成 25 年 6 月 1 日（土）「琵琶湖との絆・先史の湖畔の村々」（大津市粟津湖底遺跡他・講師：小竹森直子）

第3回：平成 25 年 7 月 6 日（土）「探究・古墳時代の木工と集落」（草津市中沢遺跡・講師：小島孝修）

第4回：平成 25 年 8 月 3 日（土）「新発見・琵琶湖を眺めた古代豪族の墓」（大津市宇佐山古墳群・講師：中村智孝）

第5回：平成 25 年 9 月 7 日（土）「探訪・丘陵に広がる古代のコンビナート」（大津市源内峠遺跡・講師：細川修平）

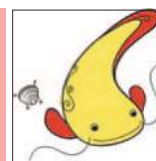
第6回：平成 25 年 10 月 5 日（土）「国の宝・近世彦根城と重臣屋敷の秘密」（彦根市特別史跡彦根城・講師：瀬口眞司）

第7回：平成 26 年 1 月 11 日（土）「古代の大動脈・琵琶湖航路と塩津港遺跡」（長浜市塩津港遺跡・講師：横田洋三）

第8回：平成 26 年 2 月 1 日（土）「復元・近世膳所城の秘密」（大津市膳所城遺跡・講師：辻川哲朗）

第9回：平成 26 年 3 月 1 日（土）「古墳時代の製材基地」（東近江市蛭子田遺跡・講師：小林裕季）

レポート 「あの遺跡は今！ Part16」～埋蔵文化財整理調査成果報告会～ 「山の営み・湖の営み」の開催報告



今回で 16 回目を迎えた埋蔵文化財整理調査成果報告会。「山の営み・湖の営み」のテーマで、琵琶湖の湖岸・湖底の遺跡群、宇佐山古墳群の調査成果報告と今号でも紹介した「塩津港遺跡」の速報解説を行いました。



特別展示（塩津港遺跡）の様子

整理室公開では、調査成果報告をした遺跡に加え、整理調査を実施している遺跡、上御殿遺跡・蛭子田遺跡・六反田遺跡の出土遺物の展示・解説も行いました。展示では、本物の出土品を間近で見ていただいた参加者の驚きと感激を生み、大変喜んでいただきました。

そして、恒例となった整理調査体験では、拓本や接合、復元作業を行ってもらい、生の資料にふれて歴史を体感してもらいました。

今年度も平成 25 年 7 月 21 日（日）と平成 26 年 2 月 16 日（日）の 2 回開催します。

川跡から石製の腕輪みつかるー石釧の発見ー



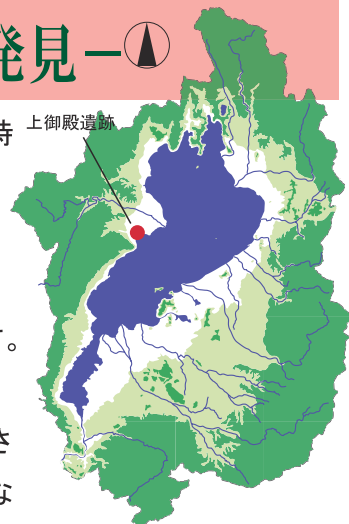
石釧の出土状況

(写真: 滋賀県教育委員会提供)

上御殿遺跡の川跡から古墳時

代前期後葉(4世紀後半)の石釧が出土しました。全体の約1/4程度の破片で、高さは2.4cm、復元した直径は約8cmです。

石釧は腕輪形石製品のひとつで、古墳の副葬品として使用されているほか、福岡県沖ノ島などの祭祀の場でも使用されている宝器的・儀器的性格の強いものです。川跡から出土していることから、祭祀に使用された可能性が想定されます。



県内における石釧の出土事例は、古墳から5基11例、

集落から7遺跡14例が知られています。安土瓢箪山古墳(近江八幡市)以外の事例は、いずれも草津市・栗東市・守山市・野洲市といった湖南地域の琵琶湖側に集中しています。今回の出土事例は、集落の出土例では県内で8遺跡目・15例目となりますが、湖西地域では他の腕輪形石製品を含めても初めて確認されたものです。

*上御殿遺跡の記者発表資料は、当協会ホームページからダウンロードできます。

http://www.shiga-bunkazai.jp/

今回のタイムトラベルの案内人はわたし「ヒミコはん」と「ケータイクン」。モデルはよく知られたあの方たちです)^(。私たちを缶バッジにして、クイズラリーの参加賞としてみなさんに喜んでもらいました。



レポ コラボ企画 「古代のアクセサリーでGO！」

体験タイムトラベル 古代へGO! 2013

今年も「体験タイムトラベル・古代へGO!」を平成25年2月9日~11日にイオンモール草津で開催しました。滋賀県内で見つかった遺跡や遺物を、地域の方々に身近に感じてもらうと毎年企画しています。4回目となる今年には、「古代のアクセサリー」をコンセプトに実施しました。



会場内の様子(イオンモール草津・イオンホール)

展示では、縄文時代から古墳時代にかけてのアクセサリーを中心に並べました。ヒスイを使った勾玉の美しさに、感嘆の声もあがりました。また、古代の衣装体験「なりきり飛鳥美人」では、たくさんの女の子がお姫様の衣装を着て、お父さん、お母さんの構えるカメラにっこりしていました。

この企画は、遺跡から出土した本物の遺物を間近に見ながらの調査員による丁寧な解説で、「地域の文化財を地域の人に」をモットーに開催しています。今回は、地元の草津市・栗東市の文化財担当職員の方々にも参加いただきました。次回もぜひご期待下さい。

レポート

「琵琶湖文化館出張展覧会」みせます今年度も！ 琵琶湖文化館の文化財を



昨年度開催された静岡市美術館での展示の様子

琵琶湖文化館では、平成24年秋に東京日本橋の三井記念美術館において、特別展「琵琶湖をめぐる 近江路の神と仏 名宝展」を開催しました。滋賀県の文化財が初めて東京で一挙公開されたこの展覧会は、多方面から注目を集めました。

平成25年新春には、静岡市美術館で特別展「滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美 近江巡礼 祈りの至宝展」を開催しました。いずれの展覧会も滋賀県あるいは琵琶湖文化館が守り伝えてきた文化財の魅力が紹介され、会期中に行ったアンケートでも「ぜひ、滋賀県を訪れたい。」との声が多く寄せられました。

平成25年度の展示開催予定

- 平成25年7月12日（金）～8月25日（日） 仙台市博物館
- 平成26年3月28日（金）～5月11日（日） 島根県立古代出雲歴史博物館

それぞれの館で「滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美 近江巡礼 祈りの至宝展」を開催する予定です。この展覧会は、琵琶湖文化館の館蔵品・寄託品の中から「仏教美術・神道美術」「近世絵画」を二部構成で紹介。国宝2件、重要文化財28件を含む81件が公開されます。ぜひこの機会に、滋賀の優れた文化財をご覧ください。なお、展示替えがございますので、出品作品については各会場へお問い合わせください。
 *琵琶湖文化館のHPでは様々な情報を発信しています。☛ <http://www2.ocn.ne.jp/~biwa-bun/>

案内 『紀要』第26号 できました。



待望の『紀要』最新号を刊行しました。本号は当協会が「公益財団法人滋賀県文化財保護協会」となって初の紀要となります。内容は、縄文時代から近世までの幅広い時期を対象として、埋蔵文化財や絵図、現地踏査などからみた文化財についての日頃の研究成果の集成、各研究の続編などとなっており、いずれも職員の個性が溢れるものとなっています。

紀要

26

公益財団法人滋賀県文化財保護協会 2013.3

- ### ■収録論文
- 発生期土偶に関する覚書
 ー相谷熊原土偶の出土以前、以後ー (松室 孝樹)
 - 土偶とは何か
 ー図像に残された意図から用途と役割を探るー (瀬口 眞司)
 - 山の集落・湖の集落 ー古墳時代開始期の集落関係ー (細川 修平)
 - 近江地域における百済系土器の一様相
 ー草津市谷遺跡出土埴形土器についてー (辻川 哲朗)
 - のぼりヤナの系譜
 ー知内川のカットリヤナと関津遺跡出土のヤナを通してー (大沼 芳幸)
 - 比良山系の山寺(2) ー高島市長法寺遺跡についてー (小林 裕季)
 - 将棋史研究ノート6 ー銀将の存在ー (三宅 弘)

■価格・お申込みなど

◇価格など ☛ A4判並製版 79頁 価格1,000円(税込・送料別)

◇お申込み ☛ 公益財団法人滋賀県文化財保護協会 総務課 (077-548-9780) まで。
 *ホームページからも購入申し込みできます。☛ <http://www.shiga-bunkazai.jp/>